

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農林水産部長

令和 5 年度 兵庫県農業気象技術情報第 5 号 (9 月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
共通	全県共通	<p>1 栽培管理等</p> <p>台風シーズンに入るので、気象情報をチェックして、早めに台風に対する備えを行う。各作物の事前及び事後対策は、令和 5 年 8 月 7 日付け農園第 1 2 9 7 号「台風襲来に対する農作物等の備えと事後対策について」 (https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/documents/r5typhoon.pdf) を参考にする。</p>	
水稲	全県共通	<p>1 生育</p> <p>県北部の極早生品種「コシヒカリ」の出穂期は平年 (7/28) と同程度、草丈は平年並み、茎数はやや多い。成熟期は平年よりやや早いと考えられる。</p> <p>県南部の出穂期は、極早生品種の「キヌヒカリ」「どんとこい」は平年より 2 日早く、中生品種の「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」は平年より 2 日早く、晩生品種の「山田錦」は平年並。草丈は平年に比べ、「キヌヒカリ」「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」で同程度、「どんとこい」でやや高く、「山田錦」でやや低い。茎数は「キヌヒカリ」「どんとこい」で平年並～やや少なく、「山田錦」「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」では平年より少ない。成熟期はやや早まると考えられる。</p> <p>2 栽培管理等</p> <p>落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈取 7 日前を目安とする。</p> <p>適期収穫を行う。刈取時期の目安は、稔実もみの 85% (山田錦は 90%) が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。</p> <p>乾燥作業前は必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。外気温が高いときに乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがあるので注意する。</p> <p>強風のため、穂ずれが見られる圃場がある。強風時には脱水症状により白穂になる危険があるので、台風などの強風が予想される際にはかん水に努める。</p>	
		<p>3 病虫害</p> <p>(1) 穂いもちの発生予想は平年並みとなっており、谷間や山陰など日陰になりやすいほ場では注意が必要である。</p> <p>(2) 紋枯病は平年並の発生と予想される。気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、注意が必要である。向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並～多い予想となっており、ほ場によっては多発する場合もあると考えられる。</p>	<p>3 病虫害</p> <p>(1) ほ場をよく見回り、いもち病の発生状況を確認する。既に葉いもち病斑がある場合は、防除対策を実施する。薬剤は病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適正に散布する。</p> <p>(2) 紋枯病の発生程度はほ場間差が大きいので、ほ場をよく見回り、適宜農薬による防除を行う。また、多発ほ場では次作で紋枯病に適用のある箱粒剤の利用を検討する。</p>

水稲 続き	全 県 共 通	<p>(3) トビイロウンカの発生は、一部地域で8月上中旬に長翅オスが見つかったが、県下全域のほ場では少ない。今後気温が高く順調な増殖が予想されるため、注意を要する。</p> <p>(4) 予察灯において、これまであまり見られなかったイネカメムシの誘殺が早くから認められている。早生品種でのイネカメムシの発生が目立ち、晩生品種での発生も懸念される。今後の1か月予報で、気温は高いと予想されていることから、発生はやや多いと予想される。</p>	<p>(3) 収穫まで1か月以上ある場合、本虫の密度が要防除水準（成・幼虫2頭/株）を超えると、坪枯れを生じる恐れがあるため、防除を実施する。メス成虫と幼虫が主に生息する株元に届くような薬剤の選定と使用方法を心がける。病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適正に散布する。</p> <p>(4) イネカメムシの対策については令和5年度「病害虫発生予察防除情報第5号（令和5年8月8日付）」(https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/904)を参考に、出穂期と穂揃期に防除を行う。他の斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期に行う。ヒエやホタルイの穂が発生源となるので、これらの雑草が多いほ場は防除を徹底する。</p>
大豆	全 県 共 通	<p>1 生育 開花期は平年よりもやや早い～平年並である。降雨量に偏りがあり、気温もかなり高いため、地域や圃場によって生育量が大きくばらついている。かん水可能な圃場の生育は旺盛であるが、土壌水分が不足しているところほど、草姿が小ぶりになっている。</p> <p>2 栽培管理 ほ場の排水を良好に保ちながら、土壌が乾燥する場合は、走り水等により土壌水分を一定に保ち、莢伸長や子実肥大が順調に進むよう努める。</p> <p>3 病害虫 (1) 立枯性病害（茎疫病）の発生は7月下旬の調査ではやや少ない発生であるが、今後の1か月予報では気温は高く、降水量も平年並～多いことが予想されており、発生を助長する気象条件が続くと考えられ、注意が必要である。</p> <p>(2) 吸実性カメムシ類は、現況はやや少ない発生であるが、今後の1か月予報によると、気温は高く、発生は平年並になると予想される。</p> <p>(3) 大豆でのハスモンヨトウの発生はやや多いと予想されているが、薬剤がかかりにくい下位葉で幼虫の発生を確認している。シロイチモジヨトウはフェロモントラップでの誘殺数が平年並～やや多い状態が続いている。今後、気温も高いと予想されているので、注意が必要である。</p> <p>(4) 8月下旬の調査においてハダニ類は平年並の発生がみられている。気温は平年より高いと予想されており、今後やや多い発生が予想される。</p>	<p>3 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。畝間かん水を行う場合は、停滞水とならないように排水対策等のほ場管理に努める。</p> <p>(2) 適期防除に努める。カメムシ類の防除適期は着莢初期～子実肥大期である。</p> <p>(3) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。シロイチモジヨトウについては令和5年7月14日発表の「令和5年度病害虫発生予察防除情報第4号」(http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/883)を参考に適切な予防と防除を行う。薬剤は病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適切に散布する。</p> <p>(4) 葉裏をよく観察し、ダニの発生を確認する。薬剤散布を行う場合は、薬剤が葉裏に十分かかるように行う。</p>

キャベツ	全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 近年、ゲリラ豪雨や台風の発生が多く、降雨に伴う作業の遅れや畝立て時の碎土不良が懸念される。</p> <p>(2) 定植後に降雨がない場合は、苗の活着不良が懸念される。</p> <p>(3) 追肥作業が遅れないように注意する。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガの発生は、加西市におけるクレオメ（誘致植物）の調査では、8月中旬の幼虫寄生シュート（花枝）率が40%を超える高い状態にある（平年30.0%）。今後の気象は高温が予想され、本種の増殖に好適であるため、今後栽培される野菜類（アブラナ科）では、被害の発生が予想される。</p> <p>(2) フェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は平年並である。今後の1か月予報によると気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。今後、栽培される野菜類では、やや多い発生になると考えられる。</p> <p>(3) シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年より多い状態で推移しており、ネギやカーネーション等様々な作物で幼虫が確認されている。今後、気温は高いと予想され、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。生態的に今後密度増加期を迎えることから、多い発生が予想され、注意が必要である。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) ほ場内外の排水性を良好に保ち、特に大雨が予想される場合には排水溝をさらえておく。また降雨による畝の崩れや落水口への連結不良に注意し、冠水時には早期の排水に努める。</p> <p>(2) 定植後は、かん水チューブ等で十分かん水し、苗の活着と初期生育を促す。土壌が乾燥している時の中耕は浅めに行う。</p> <p>(3) 条間の追肥は、葉が繁茂しないうちに計画的に早めの追肥に努める。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいので、不織布や寒冷紗などによりハイマダラノメイガの飛来を避けるとともに、定植前後に予防的防除を行う。詳しくは、令和5年8月10日発表の「令和5年度病害虫発生予察防除情報第6号」(http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/913)を参考にすること。</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。薬剤は病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に、適切に使用する。</p> <p>(3) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、生育初期の被害には特に注意する。詳しくは前出の「令和5年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考に適切に予防と防除を行う。薬剤は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に、適切に散布する。</p>
果樹	全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。以降の気象状況に留意し、各果樹の生育ステージに適した土壌水分を維持する。</p> <p>(2) 高温により成熟期が早まる可能性がある。また、果実の成熟は、樹種や品種、園地等によってバラツキがあるので、適期収穫に努める。</p>	<p>1 生育</p> <p>(1) かん水、敷きわらなどにより適正な土壌水分の確保に努める。かん水の際は、こまめなかん水を心がけ、急激な土壌水分の変化がないように注意する。</p> <p>(2) 収穫適期は、試食を行うと共に、カラーチャートや糖度計等を活用し、果皮色、糖度、酸含量、果実の硬さ等から判断する。</p>

果樹 続き	全 県 共 通	樹種別の生育状況（8月下旬時点）									
		<table border="1"> <tr> <td>クリ</td> <td>生育の進度は平年並み。毬の肥大はやや小さめで推移している。着毬量は「丹沢」でやや多い、「銀寄」でやや多い、「筑波」で平年並み。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>成熟期はほぼ平年並み。果粒肥大は良いが、着色はやや不良である。</td> </tr> <tr> <td>ナシ（青ナシ）</td> <td>成熟期は平年に比べ6日早く、前年に比べ3日早い。果実肥大は平年よりやや早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>果実の収穫開始は平年に比べやや早い。収穫開始前にまとまった降雨があり、果実は大玉傾向である。一方で、収穫開始後は晴天が続き、果実の着色は良い。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>着花は早生品種で全般に少なく、極早生・普通種は多い傾向である。果実の肥大は昨年と比べやや早い傾向である。</td> </tr> </table> <p>調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市</p>	クリ	生育の進度は平年並み。毬の肥大はやや小さめで推移している。着毬量は「丹沢」でやや多い、「銀寄」でやや多い、「筑波」で平年並み。	ブドウ	成熟期はほぼ平年並み。果粒肥大は良いが、着色はやや不良である。	ナシ（青ナシ）	成熟期は平年に比べ6日早く、前年に比べ3日早い。果実肥大は平年よりやや早い。	イチジク	果実の収穫開始は平年に比べやや早い。収穫開始前にまとまった降雨があり、果実は大玉傾向である。一方で、収穫開始後は晴天が続き、果実の着色は良い。	温州ミカン
クリ	生育の進度は平年並み。毬の肥大はやや小さめで推移している。着毬量は「丹沢」でやや多い、「銀寄」でやや多い、「筑波」で平年並み。										
ブドウ	成熟期はほぼ平年並み。果粒肥大は良いが、着色はやや不良である。										
ナシ（青ナシ）	成熟期は平年に比べ6日早く、前年に比べ3日早い。果実肥大は平年よりやや早い。										
イチジク	果実の収穫開始は平年に比べやや早い。収穫開始前にまとまった降雨があり、果実は大玉傾向である。一方で、収穫開始後は晴天が続き、果実の着色は良い。										
温州ミカン	着花は早生品種で全般に少なく、極早生・普通種は多い傾向である。果実の肥大は昨年と比べやや早い傾向である。										
		<p>2 病害虫</p> <p>(1) 8月中旬以降の降雨により、イチジクの腐敗果、疫病等病害の発生が懸念される。また、晴天が続いた場合は、高温乾燥によりハダニの発生が懸念される。</p> <p>(2) 8月上旬における場内及び現地調査でのナシ黒斑病の発生圃場率は80%（平年74.7%）と平年並である。今後降水も多いと予想されており、気温が低下してくると本病の発生が増加するおそれがある。</p> <p>(3) 果樹カメムシ類の発生は平年並と予想される。次世代成虫の出現期を迎えていることから、ナシ、カキ、ブドウ、カンキツ等の果実への被害の発生に注意が必要である。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 病害の発生に注意し、適切な防除に努める。イチジクは腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するショウジョウバエ類の発生を防ぐ。前年の秋以降病害が多発した園では、果実や葉の観察を行い、必要に応じて臨機防除を行う。</p> <p>(2) 発生に注意し、適切に薬剤防除を行い、発病が多い場合は必要に応じて臨機防除を行う。薬剤は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に、適切に散布する。来年の発生予防のため、病芽、病落葉の除去、枝病斑の封じ込め等、越冬病原菌対策を行う。</p> <p>(3) 果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なる。各園地で見回りを実施し、発生動向に注意し、適切な防除に努める。薬剤は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）を参考に、選定する。</p>								

◎水稲・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。

※本情報は、8月30日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方 1か月予報

近畿地方 1か月予報 (08/26~09/25)		
2023年08月24日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 08/26~09/25	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 08/26~09/01	気温	1週目は、高い確率60%です。
2週目 09/02~09/08	気温	2週目は、高い確率70%です。
3~4週目 09/09~09/22	気温	3~4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)					
気温	近畿地方	向こう1か月 08/26~09/25	10	20	70
		1週目 08/26~09/01	10	30	60
		2週目 09/02~09/08	10	20	70
		3~4週目 09/09~09/22	10	30	60
降水量	近畿地方	向こう1か月 08/26~09/25	20	40	40
日照時間	近畿地方	向こう1か月 08/26~09/25	40	40	20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方 3か月予報

近畿地方 3か月予報 (09月~11月)		
2023年08月22日14時00分 大阪管区気象台 発表		
09月~11月	気温	平均気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
09月	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わります。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
11月	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わります。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)					
気温	近畿地方	09月~11月	20	30	50
		09月	20	30	50
		10月	20	30	50
		11月	20	40	40
降水量	近畿太平洋側	09月~11月	20	40	40
		09月	20	40	40
		10月	30	30	40
		11月	30	40	30
	近畿日本海側	09月~11月	30	30	40
		09月	20	40	40
		10月	30	40	30
		11月	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078) 341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線4074
農産班:野菜担当 内線4054
花き果樹班 内線4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター

企画調整・経営支援部	TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部	TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病虫害部	TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部	TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部	TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>分類から探す>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)